生涯現役 いつまでも若々しく生きよう
足利市倫理法人会で考える

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)先日、北朝鮮軍が韓国を攻撃したという報道がありました。私は12年前、弁護士の高井伸夫先生を団長にしてNHKのアナウンサーや日刊現代、TBSの取材陣、経営者団体の方々と一緒に、名古屋からの直行便で北朝鮮の平壤(ピョンヤン)を訪問したことがあります。平壤から板門店(はんもんでん)へ行ったときに、北朝鮮軍の将校の方に「なぜ北朝鮮の軍隊はこのように戦闘状況にあるのですか」とお聞きしたところ、「北朝鮮に向けて韓国や日本の沖縄からミサイルが向けられているので、我々も防衛している。我々は戦闘状況にある」とおっしゃっていました。私は驚いて、「戦闘状況と言っても、1990年に冷戦が終わり戦争状況は終わったのではないですか」とさらにお聞きすると、「我々は社会主義陣営を守るために、今戦争状況にある」と説明され、さらに驚いてしまいました。このように私は12年前の5月に北朝鮮を訪問したのですが、その訪問した年の8月末にテポドンが日本列島を越えて太平洋に着弾したことを知って、北朝鮮軍が本気だったのだと思いました。もしかしたら、北朝鮮の方々はいまだに戦争状況が続いているという認識があって先日のような行動に出たのではないかと思い、認識を新たにしました。そのように考えている国がありますので、日本としてもしっかりと防衛体制をととのえなくてはならないと思います。
- (3)話は変わりますが、足利市倫理法人会から御依頼があり、昨日の11月26日(金)朝6時～7時に足利市倫理法人会の勉強会であるモーニングセミナーで講演をしてきました。今日はその内容についてご紹介させていただきます。

2. 生涯現役 いつまでも若々しく生きよう

- (1)倫理法人会は足利市だけでなく、宇都宮市はじめ日本各地にあります。そこでは、企業経営にとって企業倫理が一番大事であり、そのために自分たちも勉強をしなくてはとモーニングセミナーを開いております。どこの倫理法人会もモーニングセミナーは朝6時～7時に行い、いろいろな有難いお言葉をみんなで合唱したり、講師を招いてお話を聞いたりして、みんなで頑張るという勉強会です。
- (2)私は、「いつまでも若々しく生きる街」をつくったらどうかというお話をしました。私は、15～20年ほど前からこのことについてお話しています。もし今のままですと、高齢者医療や介護のためにいつ財政が破綻してもおかしくないという状況が今の日本にはあるからです。消費税を上げるなどの方法もありますが、いくら高齢化社会を迎えても大幅な消費税増税をしなくても大丈夫な方法が1つだけあります。その唯一の方法は、「いつまでも若々しく生きる」こと、少し言いにくいことですが、介護のお世話や病院のお世話にならずに自然のうちに亡くなる体を作っ

たほうがよいということ、また、1つ1つの街はそのような形になるように体制をととのえたほうがよいのではないかとということです。私はこの御提案をさせていただきました。

- (3) 倫理法人会の勉強会でしたので、自分自身の中に大切な価値観、倫理を持ち、皆が若々しく生きて元気に元気に過ごして最期の日を迎えよう、そのような街をつくるのも1つの考えではないかとの御提案をしました。
- (4) 私の考えは、「生涯現役がすべて」考えです。亡くなる前の日まで何らかの形でお仕事や社会的活動をさせてもらって1円でもよいから収入を得て、そのうちの少しだけでも税金として生涯にわたってお支払いすることで社会を支えるという生き方がよいのではないかと思います。
- (5) 具体的には、50代は週休2日、60代は週休3日、70代は週休4日、80代は週休5日、90代は週休6日、100歳を過ぎたら好きなだけ休みを取る。これが私の休日についての考え方です。生涯現役とは、生涯にわたって働き続ける、社会的活動をし続けることを意味します。
- (6) 働くとは、ものやサービス売ってその対価としてお金、つまり現金収入を得ることを意味します。現金収入を得るために、働く時間は1日何時間でもよいと思います。先程お話ししました休日の目安に従って、1週間に何日間か、自分の健康状態とよく相談して、1円でもよいですから現金収入を得たり、収入にはならなくてもよいから社会的活動をする時間を作ることが大切だと思います。
- (7) では、どのような仕事があるかと言いますと、日本の社会には世界最高水準の仕事をしている人がたくさんいらっしゃいます。そのような仕事をしている人たちのサポートをする様々な代行業務がたくさんあります。その方々をサポートする仕事に徹すれば、多くのお金は稼げないかもしれませんが、1日に何時間か働いていくらかのお金を稼ぐことができると思います。
- (8) 例えば、仕事で忙しい人たちが飼っている猫にエサを与える、これもお仕事になります。飼い主が留守の日に犬にエサを与えるサービスは、10年以上前から大流行しつつあります。犬を散歩に連れて行くことも、東京などではとても流行っています。また、小学生の子供が学校から帰ってくるのを家で待っていてあげておやつを食べさせてあげる、これは立派なママさん代行業です。これに加えて、1部屋だけでも掃除をしてあげたり、週に何回か夕食を作ってあげたりしたら、泣いて喜ぶ方もたくさんいらっしゃいます。これも立派な子育て支援事業といえると思います。さらに、少しでも子どもに勉強を教える、もっと喜ぶ方もいらっしゃると思います。
- (9) また、朝早く起きてお弁当を作ってあげるサービスや庭の手入れをするサービス、掃除や洗濯、買い物をする余裕のない独身の方の家に週1~2回行き、1~2時間手伝ってあげることもサービスです。また、1日1時間の店番や電話番をしてあげることや、経理が苦手な商店主の代わりに1日30分~1時間の帳簿つけをしてあげることとても有難いサービスです。
- (10) やりたい仕事が決まったら、知り合い100人にチラシを配ったり、近所にあいさつなどをしてお客さんを探せばいくらでもいます。できるだけ自分のできる範囲で、休みの日もたっぷり取りながら1日何時間か、体の許す限り働き続ける。このような街をつくと保険制度も破綻しませんし、年金制度も破綻しません。よい街と県、国ができると思い、お話をさせていただきました。

3. おわりに

今日は足利市倫理法人会のモーニングセミナーでお話した内容を少し紹介させていただきました。手軽にできる社会的活動は、よく考えれば身近に山ほどあります。皆様はどのようにお考えでしょうか。

2012年8月20日加筆・訂正、林明夫